

ひとが生き生きと暮らすための情報誌

びよんど

Beyond gender

2021.3 VOL.49



特集

若者や女性が活躍でき、選ばれるまちとなるために何が必要か

「若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会」開催2・3・4

「性的マイノリティ」を正しく知っていますか vol. 2 5

DVの相談件数が増加しています 6

男女平等参画社会づくり功労賞の受賞者ご紹介

ニューヨーク国連本部で開催された「COUNTED & VISIBLE」に参加しました 7

さんかくデータ 8

男女共同参画都市宣言

美しい自然に恵まれ豊かな歴史を育んできた、わたしたちのまち水戸
わたしたちは、水戸のまちをさらに輝きあふれる明日へとつなぐため、「平等・創造・平和」を基本理念とし、男女がともにわがまち、ともにつくる社会の実現に向け、水戸市を「男女共同参画都市」とすることを宣言します。

- 1 わたしたちは、ともに一人ひとりが尊重しあい、平等のもとに生き生きと暮らせるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに自らの意思で社会のあらゆる分野に参画し、次の世代へとつなぐ豊かでゆとりのあるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに地球環境を守り、世界へ向けて、友情と平和の輪を広げるまち水戸をつくります。

平成8年4月1日

水戸市

※誌名「びよんど」は1997年、公募により命名されました。Beyond gender(性差を超えて)の思いが込められています。ジェンダーとは、社会的性別のことです。

特集

若者や女性が活躍でき、 選ばれるまちとなるために何が必要か

若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会」開催

2021（令和3）年1月19日（火） 水戸市役所4階中会議室

人口減少社会で、水戸市が住みやすいまちであり続けるためには、女性や若者に選ばれるまちとなる必要があります。そこで、どのような施策が有効か、市長をはじめ市執行部の前で、茨城大学・常磐大学の学生の皆さんから政策提言をいただきました。

提言は、エビデンスに基づく政策立案「EBPM(evidence-based-policy-making)」を重視し、データや聞き取り調査など「きちんとした根拠」が示されたうえで学生の視点から様々な意見が出されました。今回はその発表内容を御紹介します。



発表 1 「水戸市の女性管理職割合を上げるには」

茨城大学 経済政策論ゼミナール（発表者 3年 おおさき いっせい 大崎一誠さん、しまだ れい 嶋田麗唯さん、てらかだ たくす 寺門佑さん）

水戸市は、女性も活躍できる、誰もが住みやすいまちを目指しているが、同規模の自治体と比べ水戸市役所内での女性活躍が十分に進んでいないことに着目して検討した提言

【エビデンス】

女性の管理職割合が少ない原因は昇進意欲の低さと、職務経験の差

- ①自分の能力に自信がない、仕事と生活の両立ができなくなる。⇒特に女性は昇進意欲が低い
- ②育児休業取得率の差（女性 98%，男性ほぼなし）、時間外勤務の男女差、職場における男性偏重の固定概念、育休を境に任される仕事の差。（職員インタビューより）⇒男女の職務経験に差がある
- ③明確な意思や理由がない人はデフォルト（初期設定）をそのまま受け入れる。⇒推奨したい方を初期設定にしておき、それを希望しない場合のみ、意思表示を求める「デフォルト化」が有効

【提言1】男性職員の育休取得をデフォルト化（初期設定）することで、育休取得率を上げる

男性も育休をとるようになれば、職場における男性偏重の固定概念を和らげることができるはず。

【提言2】入庁時からの昇進意欲を削がない工夫をする

入社2年目に昇進意欲が低下する傾向があることから、男性偏重の固定概念や雰囲気に触れて意欲を失っていると考えられる。これらを振り払う研修を実施する。

【提言3】育休後の段階的仕事復帰のルール化

子どもの年齢によって段階的に仕事の裁量の基準を設け、任される仕事の男女差を可能な限り小さくする。

《学生から高橋市長への質問》

女性が管理職になることのメリットとデメリットは何でしょうか。市役所目線と職員目線の両方で教えてください。

高橋市長

市役所目線でのデメリットはないと考えています。女性が役職に就いてすぐに育休に入るといっても、バックアップ体制を作っておけば良いことです。多様な視点は大切に、災害対策本部にも必ず女性を入れるようにしています。

職員目線では、家庭との両立ができなくなると感じる職員がいるならば、そう感じさせない仕組みを作ることこそ大事です。



びよんど

発表2 「サテライトオフィス誘致と子育て支援」

水戸で学ぼう、住もう、働こう、家庭を築こうと思えるような
私たち学生世代が憧れる活動的な街づくりのために

常磐大学 北根ゼミナール（発表者 3年 ^{あ べ ゆ う か} 阿部佑香さん、^{い し む ら ひ と み} 石村仁美さん、^{お い か わ そ ら と} 追川空人さん）

理想のまちとは、「都市と地方の良いところを詰め合わせたバランスがある、自然豊かでストレスなく住むことができる、子育て環境が整っている」などとして検討した提言

【エビデンス】

- ①水戸市に希望する就職がないなどの理由により、将来水戸市以外で働きたいと考えている学生は6割～7割。
- ②学生の就職意識は、「楽しく働きたい」「社会貢献したい」などに変化。
- ③「子育て情報」を入手する方法で現在は「広報みと」が多いが、近年 SNS や市のホームページが増えている。
- ④市内小学生の保護者が希望する放課後の過ごし方は、開放学級・学童クラブであるが、一方で一般市民は、地域における子育て支援を知らない人も多く、情報も少ないため関心がうすい。

【提言1】水戸サテライトオフィスで職住近接を実現する

徳島県美波町では、全国屈指のブロードバンド環境の整備などにより12社が進出し、20～30代の子育て世帯が移住している。水戸市の自然に囲まれた環境で、仕事と生活のどちらも充実ができ、地域貢献の一翼を担え、やりがいを感じる仕事を見つければ、楽しく働くことができる。

【提言2】水戸市の「子育て支援を知る・学ぶ・考える」場づくり

地域の子育て支援の向上に向け、学生時代に地域への理解を深められるよう、学生ボランティア活動による取組を進めるため SNS 等で子育て支援情報を積極的に配信する。また学生の市子育て支援拠点への取材やボランティア活動の立案などの体制を整備する。

《学生から高橋市長への質問》

市長が20代の頃「住んでみたい理想のまち」をどのように描いていましたか。

高橋市長

就職してから2年間アメリカのポートランドに住んでいました。多様性を重んじ、英語もあまり話せないような人でも受け入れてくれた。そのとき「人に優しいまち」より、まず「人が優しいまち」っていいなと思いました。ポートランドは今、全米一住みたいまちになっています。今でも、地域力、人間力、市民協働を大切に考えている思いは変わっていません。



発表3 「男女の家事育児分担差の改善のために」

茨城大学 経済政策論ゼミナール（発表者 3年 宇津木舞尋さん、小田悠翔さん、張雅倫さん、
廣瀬友香さん、渡邊陽祐さん）

共働き世帯が増加しているなか、家事育児関連時間の男女差は依然として大きいことに着目して検討した提言

【エビデンス】

家事育児関連時間の男女差が生じる原因

①男性が子育ての知識を学ぶプログラムが整備されておらず、講座や講習会に男性の姿がほとんど見られない。⇒性別役割分業意識を作っている

②小さいころからの家事をする母親を見て育つ。⇒女性が家事をするものと思いこんでいる

男性が家事育児に積極的に参加する要因

①結婚前の家事経験や、父親が家事をする家庭で育った男性は家事参加度が高い。また性別役割分業に賛成する夫の方が、かえって家事育児参加度は高い。ただし、妻は夫の家事育児の手際に不満を持っている。

⇒性別役割分業意識より家事経験の差や家庭での父親の行動が家事育児分担に影響している

【提言1】男性の家事の効率化を図る

料理・洗濯など、家事を短時間とするための講座や教室を開催する。短時間で家事ができるようになれば、妻が夫に家事を任せられるようになる。

【提言2】男性の家事育児参加の促進

夫婦の家事育児分担度を数値化し、家事育児の参加の現状を夫婦ともに把握することで、家事育児参加を促したり、学校の授業で手づくりしたエプロンをお父さんにプレゼントする「お父さんエプロン」を実施して父親の家事参加の動機づけを行う。

【提言3】結婚前の家事の経験をつける

一人暮らしと自炊を促すために、一人暮らしの人に食材を送る。また、学校での定期的な調理実習の授業を実施する（生活力向上、モテる男子になろう）。



《学生から高橋市長への質問》

理想の父親像とは何だと思えますか。実践していることは何ですか。

高橋市長

理想の父親像の答えは一つではなく、それぞれのご家庭の事情があって、どういう幸せを描いているかによると思います。それによって、お父さんの立ち位置があるのだと思います。大事なのは、家族の気持ちに寄り添い、その描いた幸せに向かって、行動できる親が理想なのだと思います。私は多忙でほとんど家にいられませんが、立ち位置は理解しているつもりで、今のところうまくいっていると思っています。

オンライン発表会を実施しました

2021(令和3)年3月4日

水戸市の若者・女性が活躍できるまちづくり

常磐大学 小笠原ゼミナール（発表者 3年 清水大和さん、藤田理央さん、益子佳大さん）

【エビデンス】

水戸市は全国の県庁所在地で唯一地価の下落が続く「ひとり負け」の状況である。同規模府県の県庁所在地との比較では人口が一番少なく、20代の人口比率が少ない。茨城県に住みたくない理由で多いのは ①公共交通の利便性が良くないから ②余暇施設、文化施設が充実していないから ③日常暮らしに関する利便性が良くないから

【提言1】大学キャンパスの設立・誘致によって18歳人口の受皿を作る

大学があることで、若者が集まり、水戸近辺で就職する人も増え、公共交通機関の発達にもつながる。

【提言2】目玉になる施設の設置・充実

野球場やアリーナなどのキャパシティを大きくすることで、若者や女性がイベントに集まったり、活躍の幅がひろがる。

【提言3】地域型保育事業の拡充

企業主導型保育事業を促進する。提言1,2で都市としての魅力を高め、呼び込んだ若者や女性の受皿を作る。

詳しくは、水戸市ホームページ

エビデンスに基づく政策提言

参照

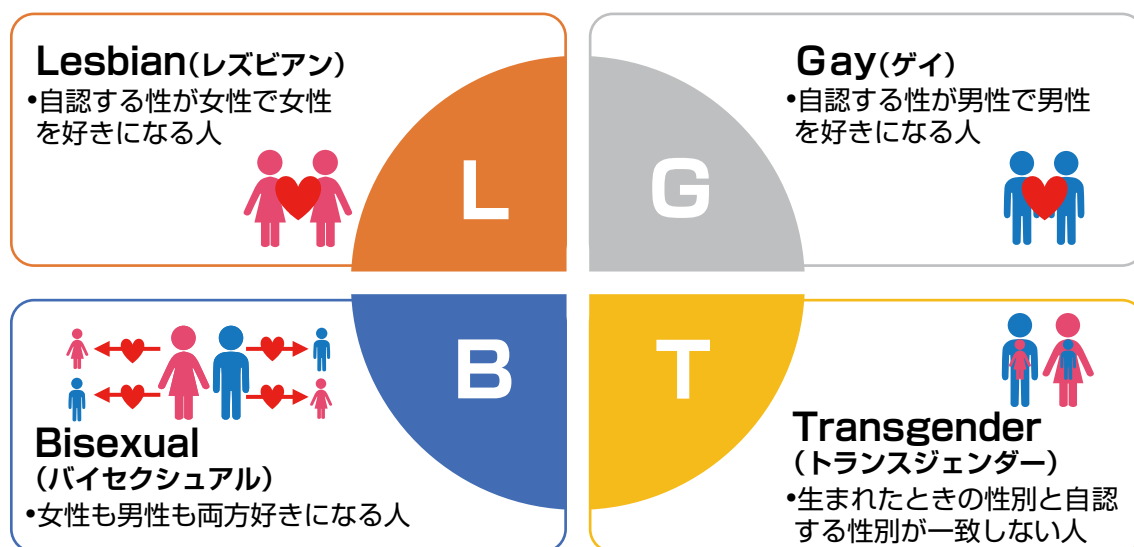
びよんど

「性的マイノリティ」を正しく知っていますか vol.2

「性的マイノリティ」や「LGBT」という言葉を知っていますか？

一人ひとりに個性があるように、性のあり方は実に多様なものです。誰もが、性別にかかわらず、自分らしく安心して暮らすことができる「まち」の実現に向け、多様な性のあり方について「知る」ことから始めてみましょう。

「LGBT」ってなに？



LGBTは、上図の4つの頭文字をつなげた言葉で、性的マイノリティ（性的少数者）を表す言葉の1つとして使われています。このほかにも、誰にも恋愛感情をいだかない人（アセクシュアル）や、自分のこころの性や好きになる人がわからない人（クエスチョニング）など、様々な性のあり方があります。LGBT以外の全ての性のあり方を表記することは不可能であるという意味で「LGBTQ+」などと表現することもあります。

「SOGI」ってなに？

Sexual Orientation
性的指向（好きになる相手の性）

Gender Identity
性自認（自分の性別に関する認識）

SOGI（ソジ又はソギ）とは、上図のそれぞれのアルファベットの頭文字を組み合わせた言葉で、国際的によく使われています。SOGIという言葉を用いて、性の多様性を表現することもあります。SOGIは性的マイノリティに限らず、すべての人が持っている性のあり方を意味しています。性のあり方はグラデーションのように多様で、誰もが多様な性の中を生きる一人ひとりなのです。

性的マイノリティに関する相談窓口

○水戸市性的マイノリティに関する電話・メール相談

＜電話相談＞ 日時／毎月第2水曜日 18時～20時
専用電話／029-233-7830

＜メール相談＞ 日時／随時（24時間受付しますが、返信には3日～1週間お時間をいただきます）
方法／いばらき電子申請・届出サービス（<https://s-kantan.jp/city-mito-ibaraki-u>）
またはQRコードから申し込んでください。



○茨城県性的マイノリティに関する相談室

＜電話相談＞ 日時／毎週木曜日 18時～20時（祝日及び年末年始を除く）
電話／029-301-3216

＜メール相談＞ 日時／随時（24時間受付しますが、返信には1週間程お時間をいただきます）

茨城県性的マイノリティに関する相談室入力フォーム

検索

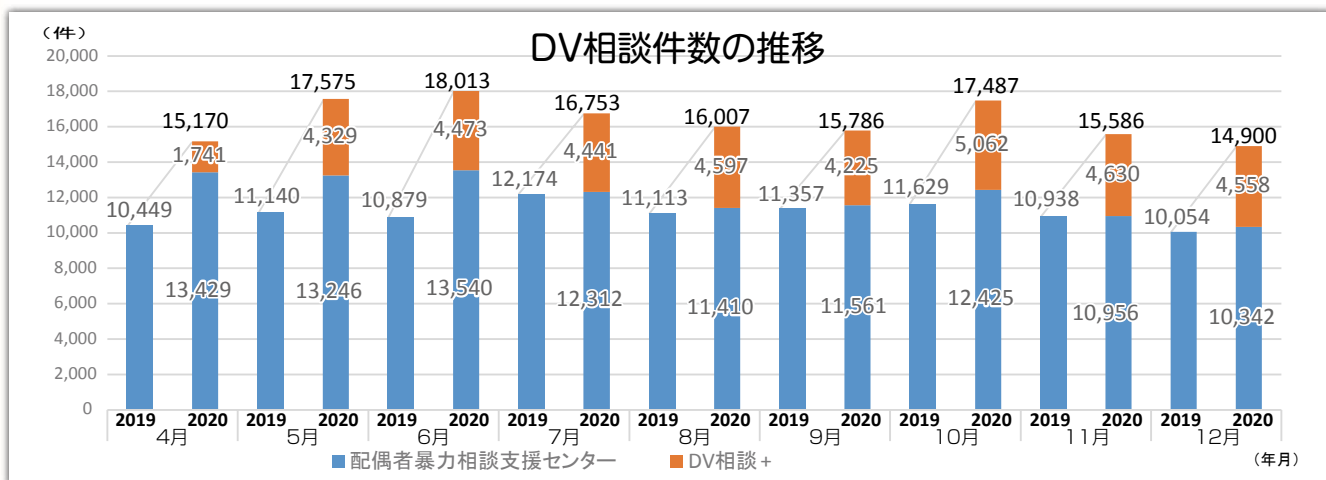
DVの相談件数が増加しています

配偶者暴力相談支援センターは、配偶者暴力防止法により都道府県の設置が義務となっています。市町村の設置は努力義務となっていますが、水戸市は2017(平成29)年4月から水戸市配偶者暴力相談支援センターを設置し、相談に対応しています。

DV(ドメスティック・バイオレンス)は、2020(令和2)年4月から5月にかけての緊急事態宣言をきっかけに、家庭にいる時間の長期化から増加と深刻化が懸念されています。

内閣府男女共同参画局調べによると、同年4月から6月にかけては、前年度同月と比べて配偶者暴力相談支援センターへの相談件数だけでも大きく増加しています。さらに同年4月からは、DV相談+(プラス)として、電話だけでなく、メール、チャットを利用した相談も可能となり、配偶者暴力相談支援センターへの相談と併せると、同年5月、6月の相談件数は前年同月比で約1.6倍となっています。同年4月から12月までの相談件数は147,277件となり、既に前年度全体の相談件数119,276件を大きく上回っています。

水戸市でも2020(令和2)年の相談件数は、前年に比べて全国同様増加をしています。



(出典)「内閣府男女共同参画局調べ」より作成 ※全国の配偶者暴力相談支援センターからの相談件数は令和3年1月25日時点暫定値

相談先一覧

DVを含む暴力は、その対象となる性別や、加害者、被害者の間柄に関係なく決して許されるものではありません。また被害を受けている方は、誰にも相談できずに悩んでいる場合が多く、周りの人が気づいてあげることが重要です。「もしかしたら」と思ったら相談窓口にご連絡ください。

茨城県警察本部女性専用相談電話

029-301-8107

24時間受付

女性警察官(女性安心パートナー)が対応

水戸市子ども課 (水戸市配偶者暴力相談支援センター)

029-232-9111

8:30～17:15 月曜日～金曜日
(祝日・年末年始除く)

DV相談ナビ

#8008 (はれれば)

令和2年10月から短縮ダイヤルになりました
最寄りのDV相談支援センターにつながります

茨城県女性相談センター (茨城県配偶者暴力相談支援センター)

029-221-4166

9:00～21:00 月曜日～金曜日
9:00～17:00 土日・祝日
(年末年始除く)

DV相談+(プラス)

24時間電話相談

0120-279-889

SNS(チャット)相談

12:00～22:00

メール相談

24時間受付

※ SNS相談、メール相談は、DV相談+ホームページ(<https://soudanplus.jp>)からアクセスしてください。



男女平等参画社会づくり功労賞の受賞者ご紹介

平成18年度から「男女平等参画社会づくり功労賞」を創設し、男女平等参画社会の実現に向けて、あらゆる分野において積極的な取り組みをしている個人や団体、事業所を表彰しています。



●個人の部

小松崎 節子さん

水戸市の中心市街地で放送されている水戸公衆放送アナウンサー。聞きやすくわかりやすい話し方には定評があり、40年以上「水戸の声」として仕事に従事。そのうち20年近くは会社の代表者として指導的役割も果たす。働く女性のロールモデルとして他の模範となる。

●団体の部

みと男女平等参画を考える会

平成22年5月に、男女平等参画社会の実現に向けて男性も女性も性別に関係なくその個性と能力を十分に発揮し、それぞれが果たすべき役割について考え推進することを目的に発足。女性の視点で防災を考えるをテーマに「我が家の防災ノート」を発行。

水戸の女性史をつくる会

平成22年3月に、歴史書で取り上げられないことのない、歴史に埋もれた女性を発掘し戦後の女性史を作成することを目的として発足。茨城新聞から戦後の水戸の女性に関する記事を探して精査し、年表を作成。定例会の中で調査内容の発表とさらなる精査を行う。

●事業所の部

国立大学法人茨城大学

平成28年度、大学内の女性活躍を推進し、仕事と家庭の両立を支援するためダイバーシティ推進室を設置。女性教員及び女性管理職の増加に向け、行動計画を作成し支援に力を入れる。全国初の取組として、人文社会科学部では、教授会に子連れ出席のできるスペースを設置するなど、働きやすい環境づくりに積極的に取り組む。

ニューヨーク国連本部で開催された「COUNTED & VISIBLE」

Global conference on the measurement of gender and intersecting inequalities

(数えて見える化する：性別と交差する不平等の測定に関する世界会議)に参加しました。

2020(令和2)年2月26日～27日



水戸市は、2018(平成30)年東京で開催された、国連主催の第7回ジェンダー統計グローバルフォーラムに参加し、男女平等参画課と情報政策課が共同で「Producing Gender Statistics at Local Level: the Case of Mito-City(地方自治体におけるジェンダー統計*:水戸市の事例)」というテーマで発表しました。この発表がきっかけとなり、2020(令和2)年2月、アメリカニューヨークの国連本部で、国連統計局とUN Womenとの共催により開催されたグローバル会議「COUNTED & VISIBLE」にパネリストとして参加しました。「誰も置き去りにしない」ために、ジェンダーの視点から、様々な分野におけるジェンダー平等を測定し見える化する方法について、国を越えてデータユーザーが集まる会議になりました。

27日のセッション9 Translating statistics on gender and intersectionality to positive action「ジェンダー統計をより良い行動につなげる」において

- ①水戸市になぜジェンダー統計が必要なのか。どのようにデータを集めたのか
- ②もっとも直面した課題は何であったのか。他の地方自治体にアドバイスするとしたら何か
- ③ジェンダー統計が計画策定や予算にどのような影響を与え、今度どのような取組をしていくのかということについて発表しました。

※ジェンダー統計…男女間の意識による偏り、格差や差別の現状及びその要因、現状が生み出す影響を客観的に把握するための統計のこと

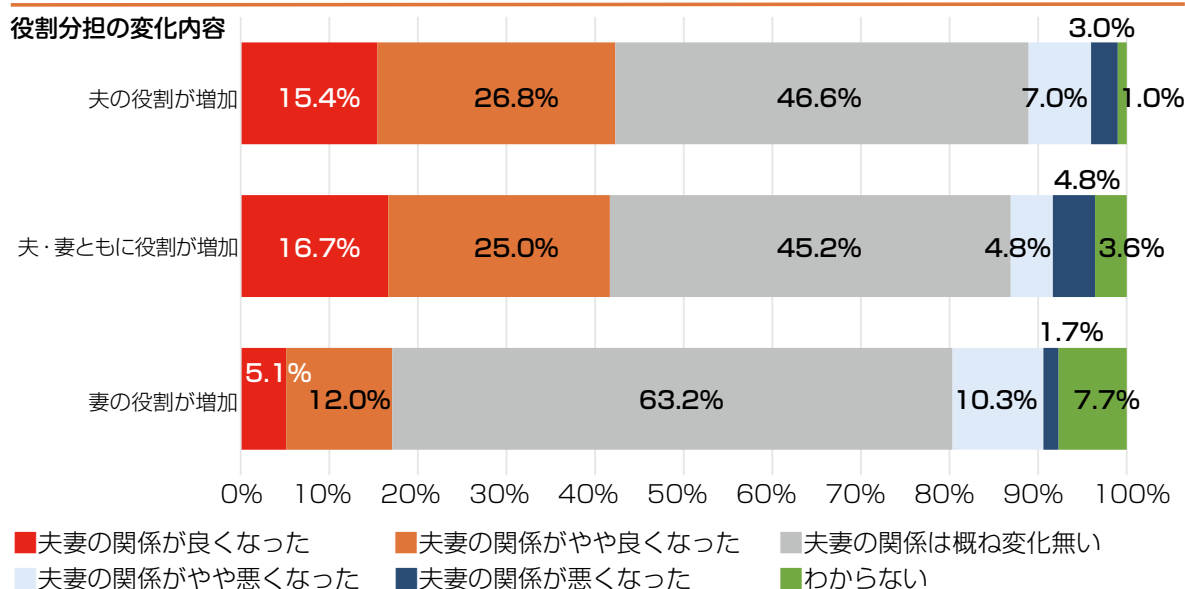


水戸市の発表の様子



モデレーター及びコーディネーターと水戸市

(図1) 家事・育児に関する役割分担の変化と夫婦関係の変化
(夫婦間の役割分担が変化した子育て世帯)



内閣府：第2回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査より抜粋

内閣府「第2回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」で、「家事・育児に費やす時間は、感染症拡大前 2019(令和元)年12月からどのように変化しましたか」という質問に、18歳以下の子どもを持つ男性の家事・育児時間は、感染拡大前に比べ「大幅に増加」、「増加」、「やや増加」と回答した人が、24.0%となり「大幅に減少」、「減少」、「やや減少」と回答した13.7%より多くなった。

図1は、コロナウイルス感染拡大前と比べ、家事・育児に関する夫婦間の役割分担に変化があった夫婦の夫婦関係の変化について示したもので、「夫の役割が増加した」と答えた夫婦と「夫・妻ともに役割が増加した」と回答した夫婦については、それぞれ「夫婦の関係が良くなった」「夫婦の関係がやや良くなった」と回答したものが、合わせて4割超となり、「妻の役割が増加した」と回答した夫婦の17.1%を大きく上回る結果となった。

男女平等参画社会推進のために・・・

■男女平等参画を阻害する相談

男女平等参画の権利、もしくは人権を侵害された、社会的な慣行等により差別を受けたなど男女平等参画を阻害する問題の相談に応じます。

日時／月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分
相談専用電話／029-233-7830

■性的マイノリティに関する相談

臨床心理士で当事者でもある専門相談員が、好きになる性(性的指向)や心の性(性自認)、心と身体の性別の不一致に関する悩みに寄り添います。(詳細は5ページに掲載)

■男女平等参画推進委員会

男女平等参画社会の推進のために設置された、市民・事業者・学識経験者から構成される委員会です。総合的な施策と重要事項を調査審議します。

■男女平等参画苦情処理委員会

男女平等参画に関する苦情の申し出を、公平・中立な立場に立って調査し、解決を図っていきます。詳細は、水戸市男女平等参画課までお問い合わせください。

編集後記

さんかくデータは、コロナウイルス感染症の影響下で男性の家事・育児に係る時間と、夫婦関係について取り上げました。コロナ以前から、育児に協力的であった夫は、子育て後妻の愛情が夫に戻ると聞いていましたが、子育て後でなくても、突発的な出来事が起こった時、家事・育児の役割をお互いに担えば、夫婦関係は良くなるということですね。さて我が家は？(Y)

発行日／令和3年3月 発行／水戸市
編集／男女平等参画課
〒310-0063 水戸市五軒町1丁目2番12号
みと文化交流プラザ5F
TEL 029-226-3161 FAX 029-226-3162
ホームページ／<http://www.city.mito.lg.jp>
印刷／関東印刷株式会社